

あけぼのすぎ

都立府中療育センター新聞 第454号 発行日 平成27年9月30日

第21回日本摂食嚥下リハビリテーション学会 学術大会に参加して

訓練科 言語聴覚士 山本 弘子



平成27年9月11日から12日、国立京都国際会館にて、摂食嚥下リハビリテーション学会が開催されました。この学会は会員の職種が、医師、歯科医師、看護師、歯科衛生士、栄養士、リハビリテーションセラピスト等と非常に多く、それぞれの専門分野での知識と技術を共有しあいながら摂食嚥下障害のリハビリに取り組もうとしていることに特徴があります。今年も多種多様の発表があり、

とても刺激的でした。

当センター摂食嚥下ワーキンググループからは渥美医長の「特別支援学校における摂食指導」、清水STの「右被殻出血により嚥下障害を呈した脳性麻痺者の一例」、私の「摂食嚥下障害のある在宅重症心身障害児者の家族指導」の3題を発表し、どれも多くの質問やご意見を頂くことが出来ました。

海外から招待されたスペシャリストの講演はどれも興味深い内容でした。特に、Clave氏（スペイン）の、高齢者が誤嚥性肺炎に罹患しない要素として重要なのは「健全に保たれた口腔衛生」「嚥下障害の症状に適した食形態の提供」「十分な栄養状態」の3つだ、という話は印象的でした。当センター利用者も高齢化が進んでいますが、口腔状態は歯科の指導、そして病棟職員の丁寧なケアで、皆、良好に保たれています。また、栄養科職員の日々絶え間ない努力で、食形態はどのような嚥下状態の方にも対応できるように作成され、更により良い食形態を目指して進化していると感じています。栄養素では特にたんぱく質が重要と強調されましたが、栄養科ではたんぱく質はもちろん、微量栄養素なども個々の利用者に適切な量が提供できるようきめ細かく対応されていますし、NST委員会でも、回診で栄養状態に問題のある利用者について助言を行っています。このような病棟、歯科、栄養科等各科、委員会の取り組みの素晴らしさが当センター利用者の健康を守っているのだという事をあらためて感じながら、講義を聴くことができました。

別の講義で、窒息事故と原因食物の調査及び嚥下食の形態の話をお聞きしました。欧米では窒息を起こす食物として肉、ソーセージ、ハンバーガーなどが多く（日本では餅、米飯が多い）、また軟らかく煮た野菜は“常食”と考え、固い肉を切った物は“嚥下食”と考えて提供する。日本ではゼリーは最重度の患者用の嚥下食として提供されるが、欧米ではゼリーというグミのような固いものしかないので全く提供されていない。などの話から文化の違いと“嚥下食”という概念の違いを感じさせられました。摂食嚥下リハビリテーション学会嚥下調整食検討委員会で行った調査では、国内の多くの施設が嚥下食作成に独自の工夫を凝らしていることが明らかになり、統一した嚥下食の基準作成という課題はありますが、日本は世界的に見てかなり高水準にあると感じられました。摂食嚥下障害のある方へのケアにご尽力くださっている各科、病棟職員の皆様、そして摂食嚥下ワーキンググループメンバーに深く感謝するとともに、私自身も知識と技術のレベルアップを図り、より良い働きが出来るよう今後取り組んでいかねばならないと気持ちを引き締めて京都から帰ってきました。今後も良い連携を取って一緒に頑張っていきたいと思っております。よろしくお願いたします。



「プール納め」

指導科 安斉 美穂

梅雨明けもはっきりせず、前半猛暑だった今年の夏。最高気温37℃～38℃と報道され、センターのプールが始まると少しずつ秋の気配が……。後半は雨・曇りが多く中々入れず。9月4日にプール納めとなりました。

当日は2時からの雨。止んだかと思い2時半にスタート。ベランダで参加している皆さんとともにゲームをはじめ、中庭にいる皆さんともゲームを。見事、バナナチームが勝利をおさめて「とんでったバナナ♪」。さあもう1曲。「南の島のハメハメハ大王」を歌っているところで大雨が。水の神様のお話しを聞いて風船を飛ばし終了しました。

あれれ？雨はすっかり止んでいました。
来年は夏らしくプールに入れますように。



第7回 センター祭 <舞台発表プログラム>



<10月16日(金)>

晴天時: グランド舞台
雨天時: 通所棟2階 理学療法室

- 10:30 開会式(院長挨拶)
- 10:35 通所発表(2015 ハロウィンパーティショー)
- 11:00 くぬぎ分教室発表(ダンス・ダンス・ダンス…！)
～ お昼休み ～
- 13:45 人生の節目のお祝い
- 14:00 5階合同発表
(ARAKAN Boys and ARA50 girls)
- 14:15 2-A発表(みんな！ちょっと待って！！)
- 14:35 1-A発表(1年A組！金バツ先生！)

<10月17日(土)>

晴天時: グランド舞台
雨天時: 通所棟2階 理学療法室

- 10:30 ボランティア表彰
- 10:45 舞台企画:じゃんけんでゲット
- 10:55 コンサート:魅惑のトリオ“T&N”
～ お昼休み ～
- 13:45 パフォーマンス:JULIE'S CLUB
- 14:30 全体制作お披露目
“きてきて北陸、きときと北陸”
- 14:45 川劇(一瞬で面を変える中国の伝統芸能)
- 14:55 閉会式(事務長挨拶)

「のむこと・食べること」の講習会や、ゲーム・体験コーナー、展示、出店などもあります。

～お待ちしております！～

平成27年度障害者虐待防止研修が開催されました

医療社会事業係 MSW 工藤 順子



秋晴れが美しい9月11日（金）あじさい館において平成27年度障害者虐待防止研修が行われました。慶応義塾大学医学部法医学教室の藤田眞幸教授より「障害者虐待防止研修の実践に向けて～法医学から見た傷のみかた」というテーマで講演していただきました。多摩療育園との共同開催で、総参加人数76名、あじさい館が満員でした。

写真を多用していただき、具体例として傷から「おかしいな、変だな」と感じ取る視点と、親の説明の信ぴょう性と傷の医学的所見が

整合しているかと

いう視点、児童・保護者を信じると同時に、保護者に騙されず、家族を社会的・医学的側面から健康な家庭・生活を構築できるように支援することの重要性を教えてくださいました。教えていただいたことを実践に活かし、利用者の生活の質の向上に努めていきたいと思えます。



センターの全面改築に向けた検討が進んでいます（家族会との懇談会など）

事務次長 永山 豊和

当センターでは全面改築に向けた取組を進めています。現在、基本設計に続き、実施設計の取りまとめに向け、改築後に一体的に運営される予定の多摩療育園と協働して細部の詰めを行っています。

8月19日（水）多摩療育園と府中療育センターとの連絡会を開催しました。

多摩療育園からは園長以下5名、当センターからは院長以下11名、障害者施策推進部からも改築担当の課長代理が参加し、残された課題について集中的に議論し、精力的に設計案について方向性を調整しました。

8月21日（金）には、実施設計の内容に関して、当センター、多摩療育園の家族会と、設計事務所との懇談会を開催しました。当日は、障害者施策推進部の障害児・療育担当課長も出席し、実施設計を取りまとめるに当たっての家族会としての要望や提案について、膝を交えて意見交換を行いました。

その中で、「デイルームには床暖房を入れて欲しい。」、「トイレの向きを変えて、休憩室がより落ち着ける空間にしてもらいたい。」、「災害時、バルコニーを円滑移動できるようにして欲しい。」など、家族の視点からの意見が出され、設計事務所の担当から、個々の要望や意見について、図面や模型を交えながら丁寧な説明がありました。

今後とも、全面改築に向け、着実に取り組んでいきます。



2-A病棟 ススキの会（招待観）

2-A 保育士 鹿志村 真紀



9月18日（金）タヒチアンダンスチーム「エコール・オリ・ハイレア」の皆さんを招いてススキの会を行いました。セクシーな衣装の綺麗なダンサーが病棟に登場すると、驚いた表情をする利用者の方が多く見かけられ、職員からも

大きな歓声が上がっていました。タヒチの音楽に合わせて手や足を動かす人、ダンサーの動きに視線を向ける人など、思い思いにタヒチアンダンスを楽しんでいる様子が見えま

5-A病棟 秋のコンサート

5-A 保育士 紺野 あけみ

9月17日（木）秋のコンサートを行いました。「コスモスベアーズ」のフルート演奏を楽しみました。

フルート五重奏の音色が病棟内に響きわたり、わらべ歌・季節の歌・ジブリの曲・由紀さおりメドレー等の聞きなれた選曲に目を閉じて聞き入る利用者や軽快なリズムの曲に手足を動かしてコンサートを楽しんでいる利用者の方が多く見られました。

他病棟からも大勢の利用者の方々が参加され盛大なコンサートとなりました。



〒183-8553

東京都府中市武蔵台2-9-2

東京都立府中療育センター

電話 042 (323) 5115

Fax 042 (322) 6207

--*ホームページもご覧下さい*-*-*

<http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/fuchuryo/index.html>